

地域との連携で得られた達成感と自己有用感 ～逆境の時こそ大切な信頼関係～

千葉県立多古高等学校

本校は、成田国際空港から東に約8km、多古米で有名な多古町にあります。校舎は丘陵の麓に建ち、目の前には市街地、その向こうに水田を見渡すことができます。

本校には普通科と園芸科の2学科が設置され、約270人の生徒は、いつも明るく元気で、張り切って授業や実習に取り組んでいます。小規模な学校ですが部活動も盛んで、運動系では常時40名程度の部員を擁する野球部をはじめとして、剣道部、ソフトテニス部、バスケットボール部などが、文化系では吹奏楽部や美術部などが頑張っています。

しかし、本校の特徴の筆頭として挙げられるのは、コミュニティ・スクールとして、地域と共に歩んでいることでしょう。平成24年度に県の指定を受け、それ以来9年間にわたり、朝のあいさつ運動をはじめとして、地域と連携した様々な活動を展開しています。

地域との連携活動を様々な形で展開することを通じて、生徒は達成感と自己有用感を味わってきました。とりわけ今年度は、世界中がコロナウイルスで閉塞状況にある中、コミュニティ・スクールとして地域の皆さんに笑顔と元気をお届けする企画を実践し、生徒たちは例年以上に手応えを感じることができました。本校が今回「魅力ある県立学校づくり大賞」に応募したのも、その達成感を皆さんにお伝えしたかったからです。

今年度の取組からおもなものを御紹介すると次のようになります。

1 ゴールデンウィークに鯉のぼり掲揚

この取組は町内の皆様にも好評で、「塞ぎがちな心に薫風が吹き抜けるような心地がして元気が出ました」とのお手紙もいただきました。

2 休校中の防災無線でのメッセージと演奏

5月下旬、多古町防災無線を通じて、野球部主将、園芸科代表がメッセージを、吹奏楽部が合唱と演奏をお届けしました。特に演奏に対しては「防災無線の演奏を聴いて、皆で涙を流した」「フルート演奏が素晴らしかった。気が塞がっていたので、元気がもらえた」との感想をいただきました。

3 復興PR支援金を活用したマスクケースの作成

10月、コロナ禍対策として多古町が募集した「復興PR支援事業補助金」にマスクケースを作成し町内飲食店へ配付するという企画に採用されたので、美術部がデザインを担当して作成しました。(右の写真が完成したマスクケースです) 1月以降、町の商工会等に協力いただき、配付する予定です。



4 道の駅多古などと連携した歩道整備事業

12月、美術部が、道の駅多古の事業に協力し、町内小学生や黑板アート作家すずき らなさんと共に交通安全のため町内の歩道に彩色を施しました。

この様子はNHK総合テレビでも紹介され、部長の佐伯花連さんは「みんなと協力して作業に取り組めたのがよかった。多古町のPRになればよい」、他の部員も「共同作業によって創作について色々な見方や考え方があることがわかった」と語っていました。NHKでは、1月中旬、再度放映する予定とのことでした。

今後、多古高校は、地域と共に歩む学校づくりをさらに推進させることによって教育力の拡充を図り、なお一層魅力ある高校になりたいと考えています。皆様も、ぜひ多古町、そして多古高校にお出でください。

地域との連携事業で得られた達成感と自己有用感 ～逆境の時こそ大切な信頼関係～

1 目的

- (1) 多古高校の教育の特徴の筆頭に挙げられるのが「個に応じた丁寧な指導」であるが、それに加えて、様々な地域連携を通じてコミュニケーション能力等が養われることも本校の魅力の一つである。
- (2) 多古高校は4年続けて定員割れが生じ、特に令和2年度入学選抜では41名の大幅な不足となった。本校にとっては定員確保が喫緊の課題であるが、志願者の増加を図るには、中学生が興味関心を抱いてくれる教育活動が必要である。その点から考えても、幅広い年代の人々との交流によりコミュニケーション能力等を向上させる場面を設けることは、志願者増加に向けた効果的なアピール材料となる。
- (3) 今年度は、コロナ禍によって4月当初から休校が続いた。6月になってようやく授業が始まったものの、校外での活動は大きく制限された。そんな中でも、多古町役場や町内各機関の協力により、いくつかの連携事業を実施することができた。
- (4) こんなに時だからこそ、少ない機会を最大限活用し、通常の校内での教育活動では体験できないことに取り組むことによって人間関係構築力、企画力、創造力等の育成を図り、以って志願者増加につなげたいと考えた。

2 取組・成果・反響

(1) 「心を通わせる」取り組み

ア 朝のあいさつ運動

- ① 平成24年度、多古高校がコミュニティ・スクールに指定されたときからの取り組み。
- ② 現在も毎日約10名の学校運営協議会委員や有志町民等が通学路に立ち、登校してくる生徒とあいさつを交わす。本年は6月1日から実施。
- ③ 生徒は、入学当初は違和感を覚えているようにも見えるが、3年生になると、世間話を交わせるようになる。
- ④ 今年度は、道の反対側で通園バスを待つ子ども園の園児も元気にあいさつをしてくれるようになった。
- ⑤ 毎朝、明るい声であいさつを返してくれる女子生徒の声
「あいさつ運動は単純な取り組みのように思われるが、このおかげで、私は、毎日清々しい気持ちで登校することができる。入学当初は抵抗感があったが、今では、会話を交わせるようになった。卒業間近になったが、残された日、これまでの感謝を込めてあいさつしたい。」

イ 鯉のぼりの掲出【新型コロナウイルス関連】

- ① コロナ禍で重く苦しい雰囲気か漂っていたので、ゴールデンウィーク中、本校屋上に鯉のぼりを揚げた(5月1日～5日)。掲出作業は校長他2名の職員が行った。
- ② 作業中、町民が手を振ってくれたり、後日、感謝の手紙をいただいたりした。
- ③ 町民からいただいた手紙(抜粋)

「本日、外にでましたら、校舎屋上に「鯉幟」が翻っておりまして。新型コロナウイルスで閉塞しがちな心に薫風が吹き抜けるような心地、元気が出ました。有難うございました。」

ウ 防災無線での町民に向けた演奏・メッセージ【新型コロナウイルス関連】

- ① コロナ禍による休校中、町内の小中学生が防災無線を用いた町民向け放送を行った。それに倣って、町役場の協力を得て、本校生も演奏とメッセージを放送した。
- ② 放送内容は、野球部主将のメッセージ、園芸科代表生徒の家庭菜園の勧め、吹奏楽部長のフルート独奏及び顧問のサクソフォン独奏(アレンジバージョン「夕焼け小焼け」)、吹奏楽部員の合唱。
- ③ フルード及びサクソフォン独奏について町民からの反響(電話で)
「演奏を聴いて感動した皆で涙を流しました。」「フルートの演奏がとてもすばらしかった。気が塞がっていたので元気をもらえた。感謝しています。」
- ④ 放送に携わった生徒の感想
野球部主将「大勢の人に向けて話すことは恥ずかしかったが、町民のみなさんに勇気を与えられてよかったと思います。」

園芸科代表「多くの人に、野菜栽培の楽しさとやり甲斐を感じていただきたかった。このような機会を設けていただきありがとうございます。」

吹奏楽部長「早速感想をお知らせいただきありがとうございます。これからもいろいろな機会に演奏をお届けします。」

エ ラジオ体操動画撮影参加 **【新型コロナウイルス関連】**

① 本来であれば、8月16日に夏の巡回ラジオ体操が多古町で開催され予定だったが、コロナ禍のため、中止となった。

② その代替企画として、かんぼ生命が主催、町生涯学習課が協力し、ラジオ体操指導員や町内小中高生等が参加して動画撮影が行われた。本校からも生徒1名が参加し体操の実演に加わったほか、町の施策を紹介する場面にも登場した。

③ 撮影に参加した生徒の感想

「今回の動画撮影を通じて、町の取り組みや頑張りがよくわかりました。この動画を通じて、多くの方が多古町に親しみを感じてくれるとよいと思います。」

(2) 「知恵を出し合う」取り組み

ア 多古町総合計画策定に向けた町民ワークショップへの参加

① 昨年今年と2年にわたる企画で、幅広い世代の町民約50名が参加。

② 本年度は7月29日と8月5日に実施。本校からは17名が参加。このうち、約半数が昨年度から継続。

③ 毎回、町の活性化に関するテーマについて班別討議し、最後に班ごとに発表した。すべての班の発表を本校生が務めた。

イ CSジュニアと本校生との意見交換会

① CSジュニアとは学校運営協議会の補助的組織。本校卒業生の多古町役場若手職員を中心に10名で組織された任意の団体。本年6月発足。本校活性化のために、様々な支援をしてくれる。

② 10月7日、CSジュニア8名と本校生徒会役員11名で、「生徒募集に直結する中学生向けチラシの作成」というテーマで討議した。

③ その討議の結論に基づき、現在、生徒会でチラシを作成中。

④ 町民ワークショップと意見交換会の双方に参加した生徒の感想

「様々な立場の方と意見を交わす企画に参加して、自分の考えをしっかりとまとめて発言することや相手の意見を的確に理解することの大切さを感じた。これらの収穫をもとにして、次の機会には、自分の意見大人の皆さんにもわかりやすく説明できるようにしたい。」

(3) 「共に作り、育てる」取り組み

ア 道の駅多古あじさい館と連携した野菜苗の販売 **【新型コロナウイルス関連】**

① 4月16～21日、コロナ禍のため、学校では実施できない野菜苗の販売を、道の駅多古あじさい館に委託した。

② 前年度3学期、休校になる前に園芸科野菜専攻の生徒が種を蒔いた。例年は、4月に生徒が校内で苗販売を行うが、今年度は休校となったため、生徒による販売ができなくなった。

イ 多古町復興PR事業補助金活用事業 **【新型コロナウイルス関連】**

① コロナ禍で落ち込んでいる地域経済を支援するための町の事業を活用し、町産業経済課の指導助言を受けながら、本校美術部が「マスクケース」を制作(2000枚)する。町内飲食店等で配付してもらうほか、オンラインで実施する町の産業祭りの景品として利用し、本校のPRに役立てる予定。

② ケースのデザインは美術部が担当。ケースの作成は専門業者。

③ デザインを担当した美術部員の感想。

「今回の制作で多古町のことを知ることができました。町内の寺院のあじさいが印象的だったので、これをモチーフとすることにしました。作品制作の過程で、今まで意識しなかった美しさに気づくことができました。」

ウ 多古町花交流事業

① 町内小学校との草花栽培を通じた交流。

② 10月21日実施。多古第一小学校児童58名が来校。本校園芸科3年生(草花専攻)5名と共にストックの種まきを行った。

3 準備段階・実施段階の工夫

- (1) 各事業の実施に際しては感染症拡大防止の面で様々な制約があったが、そのような状況下でも、最大限の効果が上がるように安全面・衛生面に配慮した。
- (2) とすれば交流そのものの成否に目が向きがちとなるが、常に本校職員が「主役は生徒」、「主眼は生徒の成長」という意識を持って生徒を指導にあたるよう、共通理解を図った。

4 広報・報道実績

- (1) 道の駅多古あじさい館と連携した野菜苗の販売 4月17日千葉日報・4月19日朝日新聞
- (2) 多古町総合計画策定に向けた 町民ワークショップへの参加 8月15日千葉日報
- (3) CSジュニアと本校生との意見交換会 10月17日千葉日報
- (4) ラジオ体操動画撮影参加 10月28日千葉日報

5 今後の方向性

生徒が持っている潜在能力を十分開花させるための連携事業という考え方にに基づき、本年度実施したものについては、次年度以降、さらに内容を充実させて展開したい。

個々の取り組みについては次のとおりである。

- (1) あいさつ運動の推進について
コミュニティ・スクールの看板事業として今後も継続して実施する。並行して、参加する成人についても、現在の学校運営委員＋役場職員＋常連有志だけではなく、広く町民等に呼び掛けて、多くの人に参加していただけるようにしたい。
- (2) 屋上掲揚ポールの活用について
町内の広い範囲から見える位置にあるので、本校のPRの意味も込めて、鯉のぼりだけに限らず、季節の行事等で活用したい。
- (3) 防災無線の活用について
本来の目的を損ねない範囲で、本校の教育活動のPRのため、また、町民へ元気を届けるために活用したい。
- (4) 道の駅多古あじさい館との連携について
今後のコロナ禍の展開次第では、本校内で販売すべき農産物の販売を委託することが考えられる。それ以外の場面でも、園芸科の活動を中心に積極的に連携事業を推進したい。
- (5) 町内小中学校との交流事業について
草花栽培に関わる事業はもちろん、英語指導や部活動交流で積極的に連携したい。
- (6) CSジュニアとの連携・各世代との意見交換等に関わる事業
生徒のコミュニケーション能力等の向上に最も直結する部分なので、できるだけ多くの生徒が、できるだけたくさんの場面で活躍できるようにしたい。
- (7) 町主管事業への参加について
コロナ関連事業だけでなく、産業まつりや観光系の行事に企画段階から多くの生徒が参画できるようにしたい。

地域との連携で得られた達成感と自己有用感

千葉県立多古高等学校 詳細版

～逆境の時こそ大切な信頼関係～

1 心を通わせる取組

ア 朝のあいさつ運動



あいさつ運動からはじまる多古高の朝

閉塞感を吹き飛ばす明るい声が響きます

イ 鯉のぼり掲出



GWの空を泳ぎます
町内の方も見てくれました

ウ 防災無線での演奏・メッセージ



エ ラジオ体操動画撮影参加



本来なら8月に多古町に来ていた巡回ラジオ体操。コロナ禍で中止となったので、代替の動画撮影です。体操の列の右から2番目が多古高生。町の事業もしっかりPRします。



吹奏楽部は独奏と合唱、野球部主将(左)と園芸科代表(中央)は元気な声を、吹奏楽部顧問(右)はサクソフォンの音色をお届けしました。



2 知恵を出し合う取組

話し合っ、まとめて、形あるものに仕上げます

ア 多古町総合計画策定に向けての町民ワークショップ参加



班別討議からスタートです



班の代表として説明します



本校からは17名が参加しました

イ CSジュニアとの意見交換会



多古町役場若手職員で結成されたCSジュニア。多古高校卒業生が多数参加しています。10月には、多古高生徒会と最初の連携活動。「生徒募集に向けて効果的なポスターを作ろう」という議題で話し合いました。

3 共に作り育てる取組

あなたのために、そして、まだ見ぬ誰かのために

ア 道の駅と連携した野菜苗の販売



大勢のお客様に感謝！

イ 復興PR補助金事業

マスクケースをデザインする美術部員



ウ 多古町花交流事業

小学生と一緒にストックの種時きを行いました。

